

「研究年報」編集委員

- 委員長 平 賀 明 彦 (日本近現代史)
委員 市 川 奈緒子 (発達臨床)
委員 栗 原 淳 一 (理科教育)
委員 佐久間 路 子 (発達心理学)
委員 森 山 千賀子 (介護福祉学・地域ケア)

編集後記

『研究年報』第17号をお届けします。諸事多端の折、多くの皆様に論稿を寄せていただきありがとうございました。また、編集委員会、事務局の皆様にもご協力いただき、感謝致します。

今号は、原稿の取り纏めから編集委員の先生方による査読審査までは極めて順調に進んだのですが、その後委員長に引き取らせていただいた編集段階で、何分不慣れで要領を得ず、うまく捌けなかったために時日を費やし、発刊が甚だしく遅れてしまいました。前年度の活動成果を今年度に生かすためにも迅速性が求められる年報の本旨にも悖る仕儀となり、大変申し訳なく思っています。これを教訓に次号に生かして行きたいと思います。今号では、【論文】【研究ノート】とともに【報告】のジャンルの中に[研究報告]の数編が加わっています。実践的研究の成果報告の一つのスタイルとして、今後の誌面の豊富化に繋がっていけばと考えています。

前委員長が、昨年3月11日の大震災についての小特集企画に力を注がれたのですが、今号では果たせませんでした。諸々の理由はあると思いますが、原発問題も含め、投げかけられた課題がとてつもなく大きく、それぞれの研究領域で、あるいはその総合化の中で、しっかり足を地につけて、時日を要することを厭わず、これまでの研究蓄積を総動員して向き合っていくことが求められているのかも知れません。本誌としても重要な継続課題としてこれからの引き継いで行きたいと考えます。

(平賀明彦)